

## 九州農試ホームページの現状と展望 —ホームページのあり方についての一試論—

川上秀和 (九州農業試験場)

Hidekazu KAWAKAMI:

Present Condition and Perspective point about KNAES Homepage

### 1. はじめに

研究成果や技術情報は、食料や農業 農村への関心の高まりもあって、消費者までをも対象として広範に公表することが求められている。また、最近ではホームページが情報入手の有用な手段として広く普及し始めている。従って、ホームページの情報公表媒体としての活用が、試験研究機関においても重要な課題となっている<sup>1)</sup>。

本稿では、九州農試のホームページを素材として、ホームページ作成 更新の活性化方策を検討する。

### 2. 技術的な原因と対応策

九州農試の筑後および都城地区においてはホームページ公開はほぼ完了したが、西合志地区では部室毎の公開が進展していない。また、各地区とも、内容充実やタイムリーな更新が進展しないという問題を抱えている。

ホームページの公開が進展しない原因の一つとして、作成が面倒という意見を耳にすることがある。しかし、解説書や雑誌記事等を参考にすれば、作成上の技術的なハードルを乗り越えることはそれほど困難ではないであろう。また、発信したい情報を分かりやすく記述することが肝要なのであるから、ワープロソフトによるタグ付けも利用の余地がある。タグが多めに付加されるが、最初は作成が容易なことが大事と割り切り、内容充実の方に傾注すべきと考えるからである。

ホームページの作成や更新が活性化しない技術的な本原因は、情報発信の仕組みが整備できていないことにある。何故ならば、情報発信の根幹は、「基幹業務用イントラネットのごく一部を顧客や外部に対して公開する」<sup>1)</sup> ことだからである。

つまり、日常的に取り扱う各種情報の中で、共有すべき部分を速やかに共有できるイントラネットと、(ホームページに公開できる形式で) 共有情報を蓄積 管理できる文書管理システムこそが必要なのである。このような技術的仕組みが整備されていれば、必要時にはホームページへ移すだけで公開できるので、作成やタイムリーな更新が容易に実施できるのである。

### 3. 当初の契機に由来する原因と対応策

ホームページの作成や更新が活性化しないもう一つの原因は、ホームページ公開の当初の契機がトップダウンであったために、「ホームページを情報公表媒体の一つとして活用すること」の意義や必要性についての認識が広まっていない、あるいは深まっていないことにある。

ホームページを作成 公開する本来の目的は、情報の積極的な発信である。しかし、現状では、ホームページ

の作成そのものが負担となっている傾向がある。これは、意義付けや必要性が曖昧なままなので、ホームページ作成が強制ないし雑用としか認識されていないからである。であるからこそ、作成が進展しないのであり、一度公開すればそれきりで内容の充実やタイムリーな更新も進展しないという悪循環に陥ってしまっている。

では、ホームページを情報公表媒体として活用することの意義や必要性についての認識を広めたり深めたりするためには、何が必要なのであろうか。

ここでは、以下の三点を提案したい。第一点は、「情報交流促進手段の一つ」(1996年2月)としたホームページの位置付けの再点検である。これを素材として、ホームページの意義・必要性について今一度活発に論議すべきではないかということである。

第二点は、「九州農業試験場 WWW ホームページの作成に関する基本方針」(1997年11月)の再点検である。ここで要点も、活発な場内論議による「基本方針」の浸透にある。

第三点は、制度的な仕組みの再点検である。例えば、ホームページの作成と管理という役割分担を明確にしておくべきではないかということである。

### 4. おわりに

「単に宣伝、それも『運がよければ見てくれるかもしれない』風の Web 公開には、自己満足以外にあまり意味はない」<sup>2)</sup>。つまり、魅力ある = アクセスしてもらえらるホームページを維持するためには、内容の充実とタイムリーな更新が必要である。そして、その根底には、情報共有の進展と意識の改革が不可欠なのである。

注)

- 1) 本稿も、発表会資料をホームページに公開している。  
(<http://ss.knaes.affrc.go.jp/kiren/kengika/papers/kawakami01.htm>)

### 引用文献

- 1) 塚本慶一郎 日経産業新聞「日米 100人電子メールアンケート」への回答の一部、1996年10月2日。  
(<http://www.nikkei.co.jp/ss/cyber>)  
2) 竹田津 恩 業務に不可欠なインターネット環境を考える、INTEROP MAGAZINE, 1999年9月号, p 176, ソフトバンク。